

携帯コミュニケーションのストレス

2013年2月1日

文教大学 情報学部 広報学科 3年

草野 加純

目次

第1章	調査研究の概要	3
1.1	調査研究の目的と背景	3
1.2	調査に関する状況	3
1.3	調査研究の方法	6
1.4	成果の概要	7
第2章	調査研究の結果	8
2.1	調査回答者の概要	8
2.2	携帯のストレス状況	9
2.3	メールストレス出現の要因	13
2.4	Twitter ストレスの出現の要因	15
2.5	Face book ストレスの出現の要因	20
第3章	まとめと今後の課題	24
参考文献		25
単純集計結果		25

第1章 調査研究の概要

1.1 調査研究の目的と背景

ストレス社会といわれる日本に新たなストレス源が登場している。21世紀は「テクノストレス」「デジタルストレス」社会ともいわれている。このストレスの原因として、ここ数年の急激なインターネットの発展にある。インターネットを介したコミュニケーション、SNS (social networking service) の普及が、以前では考えられなかったようなストレスの新たな原因に関係しているようだ。SNS とは、人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の Web サイトのことで、友人・人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供する、会員制のサービスのことである。この SNS によって、インターネット上でコミュニケーションをとり、交流している人が、コミュニケーションに疲れ切って SNS をやめてしまう。「ソーシャル疲れ」とでも呼ぶべきこんな“症状”が、一部の SNS ユーザーに見られている。特に、Twitter や Face book といった SNS は国内で利用者数が多く、認知が高い。両者は実に多くの人々に利用されており、文教大学内でも利用率は高い。インターネットの発展による SNS の一層の利用は新たなストレスの原因になりうるのか。ソーシャル疲れは本当にあるのか。メール、Twitter、Face book の利用方法、目的、頻度などによって学生のストレスには関係があるのかどうか。SNS によるストレスを感じている学生に共通点、性格特性はあるのか調査することにした。

1.2 調査に関連する背景

2009年に本大学の学生が「大学生のストレス状況」という調査を行っている。この調査では、ストレスの原因であるものを授業関係、友人関係、アルバイト関係、恋愛関係、家族関係、部活サークル関係の6つに区分した。結果は、第一位が授業関係、第二位は、友人関係、第三位は、アルバイト関係であった。四位以下は、恋愛関係、家族関係、部活・サークル関係の順である。この調査から3年経ったいま、大学生のストレス状況に変化があるのではないか。

デジタル社会といわれる現代では、デジタル機器やインターネットが急速に普及し、日に日に進歩している。便利になる一方、「テクノストレス」「デジタルストレス」といった問題も出てきた。機械化時代の到来とともに生まれたテクノストレスは、ディスプレイ障害のひとつであり、ディスプレイを使って長時間作業を行うことによって生じる精神的肉体的障害のことである。テクノストレスには、コンピューター機器をうまく扱えないことによる「テクノ不安症」、コンピューターでの作業に集中するあまり、人とのコミュニケーションがうまくとれない「テクノ依存症」などの種類がある。比較的症状が見えやすく、原因もわかりやすかったが、情報処理技術の一層の進歩がもたらしたデジタルストレスは、目に見えにくく、また自覚しにくい。デジタル社会といわれる現代で

は、パソコン端末を使えることが当たり前となっている。デジタル機器やソフトを使いこなせないことで、社会から落ちこぼれたり、拒絶反応を起こしたりする人たちが増えてきている。ビジネスでは、パソコン端末を扱えないというだけで、それまでの豊富な人間関係や経験を持った中高年が閑職に追いやられている。苦勞の末、パソコンやインターネットを使えるようになって、今度は電子メールのやりとりがあまりに便利すぎて、直接相手の顔や声を知らないまま、意志疎通を重ねてしまうことが増えてくる。その結果、会ったこともない相手と恋に落ちるネット恋愛が生まれたり、逆に、電子メールでの何気ない言葉のやりとりで、長い年月を積み重ねた友情や信頼関係を破綻させたりする。また、インターネットでの犯罪も発生している。相手の顔が見えないまま、文章の調子は口語調になりがちであるという点はネットバトルやメールでの言い争いの誘因となる。生の会話の中では、いろいろな意味を含む言葉が、文字で表すと皆同じになってしまう。送信側の意図と受信側の意図ははたしてイコールでない。思ったことをそのまま打ち、送信する。デジタル社会は便利であることは確かだが、それと同時に予期せぬトラブルも発生する。

また、最近では、Twitter や Facebook、携帯端末向けソーシャルゲームなどの普及によって、「ソーシャル」という言葉も一般的に使われるようになってきた。ソーシャル系サービス（SNS）が爆発的に普及したのには、個人が情報を世界に向けて発信できることが大きいと思われる。2009年「大学生のストレス状況」調査で、自分を理解してほしいと思う人ほど日記を書く頻度が多いことがわかった。ソーシャル系サービスの登場は、こうした傾向をより顕在化するのではないかと思う。自分を理解して欲しい人ほどつぶやき数が多かったり、自分のつぶやきに反応がないと不安になったりし、ストレスを感じる人もいるのかもしれない。NTT レゾナント株式会社は2011年1月19日、Twitter や Facebook などのサービスを利用することで疲れを感じる、いわゆる「ソーシャル疲れ」の原因に関するランキングを発表した。この調査は2011年11月、「goo リサーチ」の登録モニター1074人を対象にアンケートを実施したものである。一口に「ソーシャル疲れ」と言ってもその内容はさまざまであるが、特に多くの人を感じているのが、「毎日 Twitter にベッタリ張り付きでみている」ことによる疲れである。Twitter といえば最近ではスマートフォンにも標準でアプリが搭載されるほど普及しているが、ブログや一般的な SNS よりも手軽に投稿や閲覧が可能で、常に新しい情報が流れているため、ついついチェックし過ぎてしまう。ソーシャル系のサービスとして Twitter 同様に人気の Facebook では、「いいね！」をつけてほしくて投稿ばかりしていることや、「ソーシャルゲームのお誘いが頻繁にくる」ことによるソーシャル疲れが問題となっている。Facebook で自分の投稿を見てくれたり、コメントを付けてくれたりするフレンドを増やすのは非常に楽しいことである。だが、それを増やすこと自体が目的になってしまったり、増えたことであまり興味の無い情報が頻繁に送られてくるようになってしまったりでは、嫌になってしまうのも無理はない。この他にも、「自分の友達の数が見える」や「会社の付き合いで嫌々友達リクエスト

トを承認している」などがランク・インしている。こうしたなか、Twitter や Facebook の使い方、ではなく Twitter や Facebook での付き合い方の指南書も増えてきている。「どうしてあの人は『いいね!』やコメントがいっぱいもらえるのに、自分には少ないんだろう……」そう思い、インターネットで「自分の投稿のどこが悪いのか」と質問している人もいる。割り切りって使えば毎日を豊かで楽しいものにしてくれるのがソーシャル系サービスの良い所である。だが、近年、ソーシャル系サービスに依存しすぎている人が増えているのではないか。ソーシャル系サービスを使うのではなく、使われている人が増えているのではないか。

日本人のストレス実態調査で、20代が強いストレスを感じた、中程度のストレスを感じた原因の上位は「自分の考えが、周囲から反対を受けた」であった。近年はソーシャル系サービスの影響で自分の考えを周囲に伝えやすい状況にある。しかし、このことがストレスの新たな要因となるのではないか。他人に自分の意見や話を聞いてもらうことは良いストレス解消法の一つである。ソーシャル系サービスはそれをより簡易化させ、身近なものとした。人によってソーシャル系サービスはストレス解消の場でもある。しかしそれに依存しすぎることによって逆にストレスを溜めてしまっただけの本末転倒である。目的が手段になってしまい、手段が義務に感じられるようになると「疲れ」が始まる。つまり、ストレスになるのだから。こうしたデジタル技術の進歩は新たなストレスの原因になりうるのか。ソーシャル疲れは本当にあるのか。そこで、デジタル技術の発達やインターネットコミュニケーションの一層の利用はストレスの原因になるのか検証するためこの調査を実施することにした。

1.3 調査研究の方法

(1) 進捗経緯

4～5月	調査テーマ討論
6月	調査テーマ決定・調査テーマ具体化
7～9月	討論・調査表作成
10月～11月	調査実施・回収・単純集計報告
12月～2月	報告書作成

(2) 調査の概要

a. 調査の意図

学生はインターネットやSNSにストレスを感じているのか、調査する。

b. 調査対象者

文教大学湘南キャンパス学生(2～4年生)

c. 調査方法

授業時間内にアンケート用紙配布・回収

d. 主な質問項目

・ストレスを感じる割合	・インターネット接触時間
・イライラしやすい割合	・Twitter、FBの利用有無
・落ち込みやすい割合	・Twitter、FBの閲覧頻度
・性別	・Twitter、FBの投稿度
・性格	・1日の投稿数
・アルバイトの有無	・1日のメール送信・受信回数
・サークル部活の所属の有無	・最も多く利用するツール(メール、Twitter、FB)

e. 依頼数と回収数

	依頼数	回収数		
出版論	147	101		
田畑ゼミナール	22	19		
計	169	120	無効票	49

1.4 成果の概要

図1 - 1 各ツールのストレス頻度

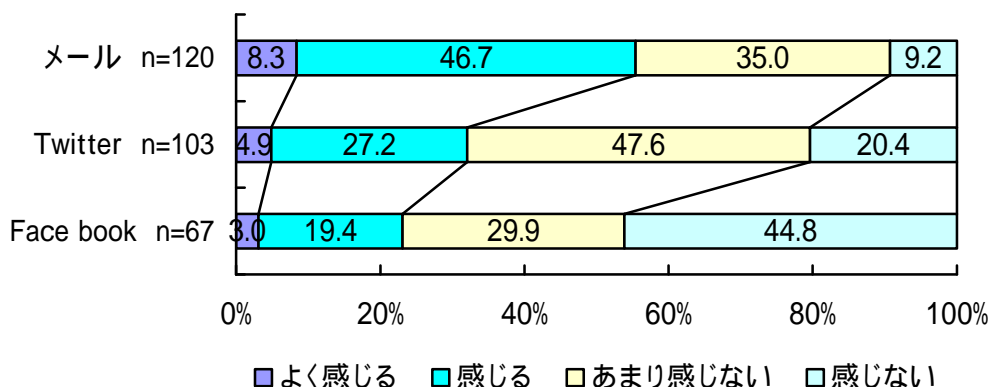
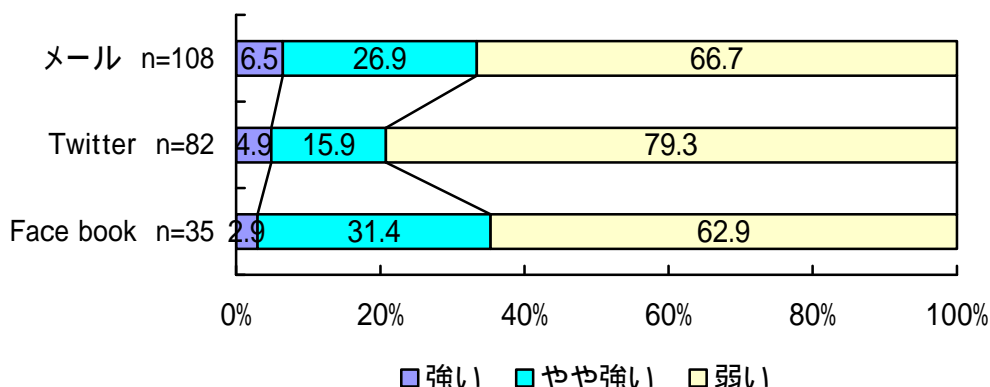


図1 - 2 各ツールにおけるストレスの強さ



調査の結果、携帯コミュニケーションであるメール、Twitter、Face book の各ツールにストレスを感じている学生がいることが判明した。ストレス頻度が一番高いのがメール、次いでTwitter、Face book といった順であった。だが、ストレスの強さはFace book が最も高く、次いでメール、Twitter といった順であり、Face book でのストレスを感じる頻度は少ないが、頻度が多い学生は強いストレスを感じている傾向にある。

各ツールのストレスの発生源は異なり、メールはメールマガジン・迷惑メール、Twitter は他人の投稿内容、Face book は操作が主なストレスの原因ということが調査により判明した。

そして、各ツールのストレスには違いがあることが分かった。それゆえに、各ツールに共通するストレスの特徴は見つからなかった。学生の性格特性や友人数、ツールへの依存度によってストレスの強さとの関連がある。特にTwitter においては性格が大いに関連しており、感情的であり自我が強いという性格特徴を持つ学生はストレスを感じやすい傾向にあることがわかった。

第2章 調査研究の結果

2.1 調査回答者の概要

調査対象者は、文教大学湘南校舎の学生120名で、「出版論 「田畑ゼミナール」の計2クラスで、紙面によるアンケート調査を実施した。なお回答標本は無作為抽出で作成してはいたないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2-1-1と表2-1-2で確認しておく。

表2-1-1の学年別の分布では、3年生が過半数であり、次に2年生、4年生と続く。1年生は0人で、3年生が主な対象者となっている。また表2-1-2の性別の分布では、母集団では男子の方が多少多く、回答者とは逆だが、ほぼ均等となっている。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されると考えられる。

表2-1-1 回答者と母集団の比較

	1年	2年	3年	4年	計
回答者	0 (0)	48.3 (58)	45.8 (55)	5.8 (7)	100.0 (120)
情報学部 学生	25.8 (515)	22.0 (440)	25.5 (509)	26.7 (534)	100.0 (1998)

(注)母集団は情報学部2012.10末時点である。

表2-1-2 回答者と母集団の比較

	男子	女子	計
回答者	30.0 (36)	70.0 (84)	100.0 (120)
情報学部学生	66.1 (1321)	33.9 (677)	100.0 (1998)

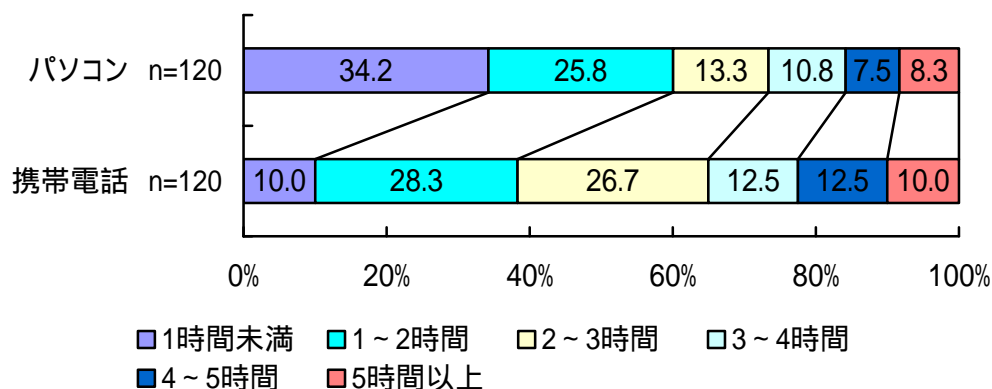
(注)母集団は情報学部2012.10末時点である。

2.2 携帯のストレス状況

(1) 携帯電話の利用状況

文教大学生のインターネット利用端末と利用時間の結果を表にしたものが、図2 - 1である。インターネット利用が1時間未満の学生は、パソコンでは34%、携帯電話では10%であり、インターネット利用が2～3時間の学生は、パソコンが13%、携帯電話が26%であった。インターネットを長時間利用する端末は、パソコンより携帯電話の方が多いことがわかる。デジタル技術の発達により、1998年から携帯電話でのインターネット利用が可能となった。それまで、インターネットといえばパソコンであったが、図2 - 1から読み取れるように携帯端末はインターネットを利用するものとして現代に欠かせない重要なものとなった。

図2 - 1 インターネット利用端末と利用時間

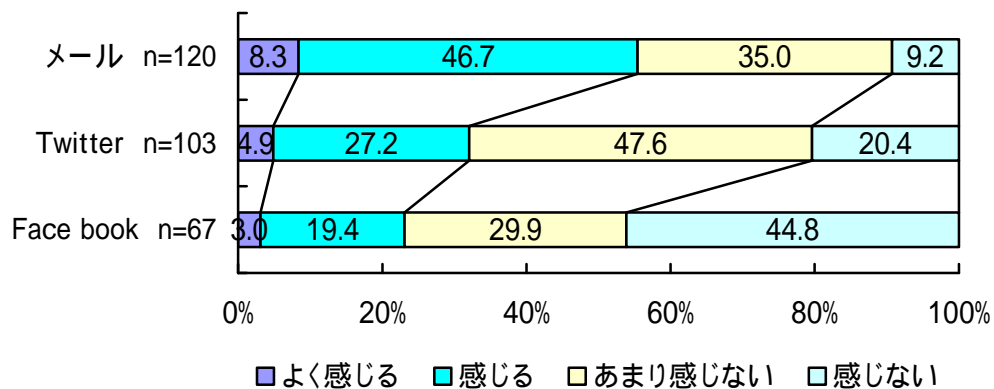


近年のSNSの一層の普及により、文教大学生のTwitter、Face book 利用率は非常に高いものだと調査により判明した。Twitter 利用は85%、Face book 利用は55%と大半の学生がTwitter、Face book を利用しており、どちらも利用していない学生は稀であることがわかった。

(2) 各ツールのストレス感

次に、携帯電話で主に利用されるインターネットを介したコミュニケーションツールであるメール、Twitter、Face book にストレスを感じたことはあるか、学生に質問した。その結果が図2 - 2 である。

図2 - 2 各ツールのストレス頻度

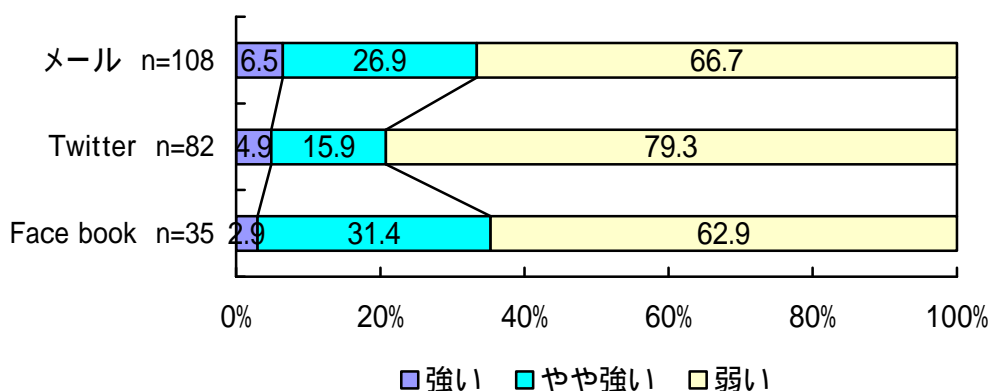


学生がストレスを「感じる」と回答した割合が各ツールの中で最も高いのがメールであった。次にTwitter、Face book の順である。メールは約半数の学生がストレスを感じる頻度が、「よく感じる」「感じる」と回答した。Twitterは「よく感じる」「感じる」と回答した学生が3割であり、「あまり感じない」「感じない」と回答した学生は約7割であった。Face bookは「よく感じる」「感じる」と回答した学生は2割程度であるのに対し、「あまり感じない」「感じない」と回答したのは約8割であった。

(3) 各ツールにおけるストレスの強さ

上記での各ツールにストレスを感じる頻度が「よく感じる」「感じる」と答えた学生に、次に各ツールにおけるストレスの強さを聞いたところ、「強い」「やや強い」と回答した割合が最も高いのはFace bookであり、次いでメール、Twitterであることがわかった。先述の結果でFace bookはストレスを感じる頻度が少ないツールであることがわかったが、ストレスを感じる頻度が高い学生はそのストレスを強く感じる傾向にあることが図2 - 3からわかる。またTwitterは最もストレス度が低いツールであり、「弱い」と回答した学生は約8割を占めた。

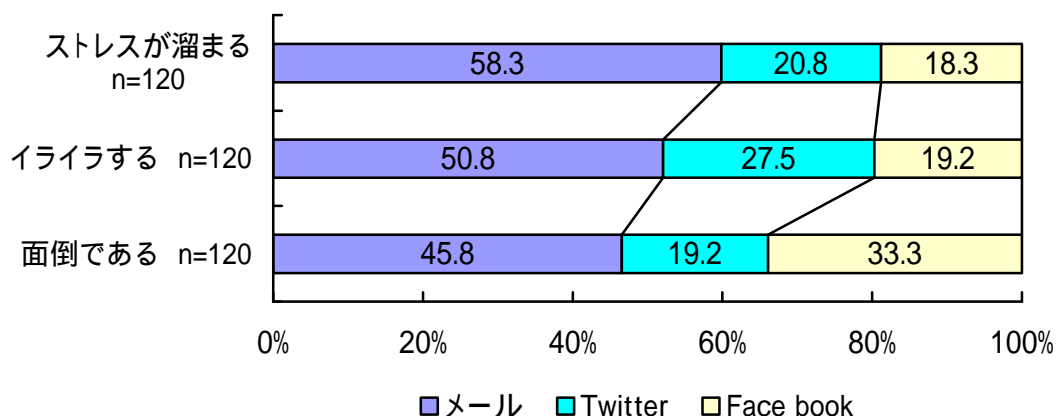
図2 - 3 各ツールにおけるストレスの強さ



(4) ストレスの現れ方

各ツールの利用に伴い、「最も面倒だと思うものは何ですか」、「利用時に最もイライラしたことがあるものはどれですか」、「利用時に最もストレスがたまったことがあるものは何ですか」と、どのような感情を持つか学生に質問し、結果を図にしたものが図2 - 4である。

図2 - 4 ストレス要素への各ツールの出現要因



メールをイライラする、面倒である、ストレスが溜まると回答した学生は全体の約半数であった。中でもストレスが溜まると答えた学生は58%と多く、約6割の学生がメールをストレスが溜まるツールであると答えた。このことからメールはストレスが現れやすいツールであるといえる。

Twitterをイライラすると答えた学生は27%であり、面倒であると答えた学生は19%、ストレスが溜まると答えた学生は20%であった。Twitterを面倒である答えた学生の割合は各ツールの中で最も少なく2割にも満たない。これはTwitterの特徴である簡易性と関係があると思われる。また、

イライラすると回答した学生の割合は同じ SNS である Face book と比べ 27%と若干数であるが多くの、Face book よりも Twitter の方がイライラしやすいツールであることがわかった。

Face book をイライラすると答えた学生は 19%であり、面倒であると答えた学生は 33%、ストレスが溜まると答えた学生は 18.3%であった。Face book を面倒であると答えた学生は Twitter と比べ 14%ほど多い。Twitter より Face book の方が面倒であると感じる学生が多いことがこの調査によりわかった。

メールが特にストレスが現れやすいツールであることがわかった。次いで、Twitter、Face book という順にストレスが現れやすいようである。

(5) 各ツールのストレスの特徴

以上から、各ツールのストレスの特徴を説明する。

メールは最もストレスを感じる頻度が多く、また感じるストレスの強さも各ツールと比べて強い傾向にある。利用時にイライラしたことがある割合、面倒だと思う割合が最も高いツールであり、また学生はストレスが溜まりやすいツールとして学生が自覚している傾向にある。全体の約半数である 55%の学生がメールでのストレスを感じた経験があり、ストレスが溜まると答えた学生は約 60%と半数を超えた。メールは利用時にストレスが最も現れやすいツールであると推測できる。

Twitter はメールの次にストレスを感じる頻度が多いツールであるが、感じるストレスの強さとしては各ツールの中で最も低い。次に利用時にイライラしたことがある割合、ストレスが溜まったことのある割合はメールの次に高いが、面倒だと思う割合は各ツールの中で最も低い。Twitter の特徴である操作の簡易性や投稿の気軽さによって、面倒だと思う学生が少ないのだと思われる。また、Twitter はストレスが溜まったことがある割合よりもイライラしたことがある割合の方が高く、ストレスには至らない程度のイライラが利用時に存在しているのではないかと推測できる。

Face book は、ストレスを感じる頻度が最も少なく、Face book によってストレスを感じたことがないと回答した学生は約半数の 44%であった。しかし、感じたことがあると回答した学生にストレスの強さを聞いたところ、「強い」が 2%、「やや強い」が 31%であった。ストレスを感じたことのある学生はそのストレスを強く感じる傾向にあることがこの結果からわかる。Face book を利用時にイライラしたことがある、ストレスが溜まると回答した学生は全体の 2 割以下であり、各ツールの中で最も低かったが、面倒だと思うは 33%とその割合はやや多い。このことから面倒であることが Face book ではストレスに関係しているのではないかと推測できる。

2.3 メールストレス出現の要因

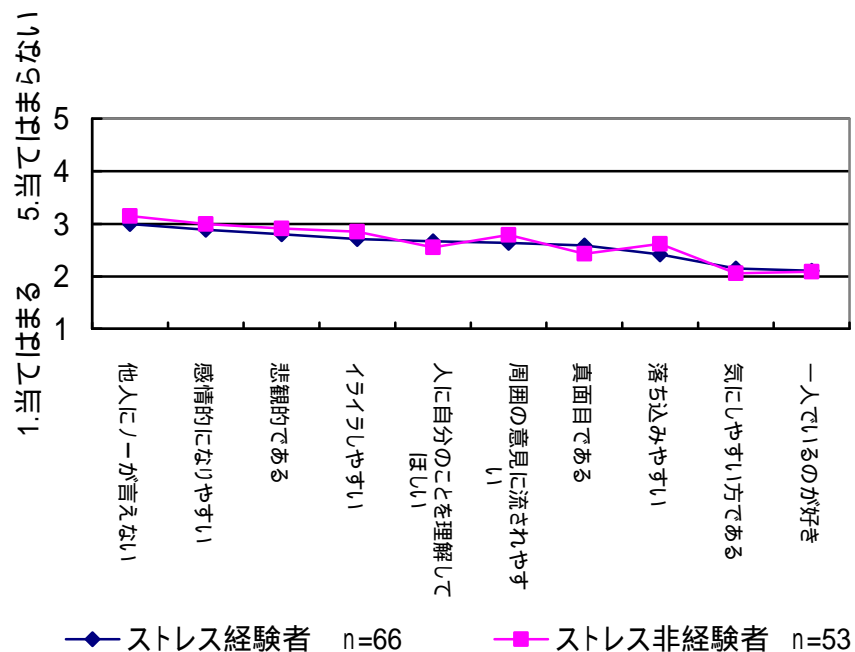
メールストレスの主な特徴として、各ツールの中で最も多くの学生が利用時にストレスを感じる頻度が高いツールであり、イライラした経験があるツールである。ストレスの強さや、面倒だと思う割合も各ツールと比べ高いツールであり、ストレスが最も現れやすいツールである。

(1) 性格とメールストレスの関連性

メールストレスと学生の性格特性には関連性はあるのかを検証するため、メールのストレスを感じたことがあるかないかでグループを作り、性格質問群とのグループの平均を行った。その結果が図2-5である。

図が示すように両グループに差はなく有意な結果は得られなかった。性格がメールストレスを感じた経験の有無に関係することはないことがこの結果から読み解くことができる。

図2-5 性格平均とメールストレス経験



(2) メールストレス発生源

図2 - 6 メールストレス発生源

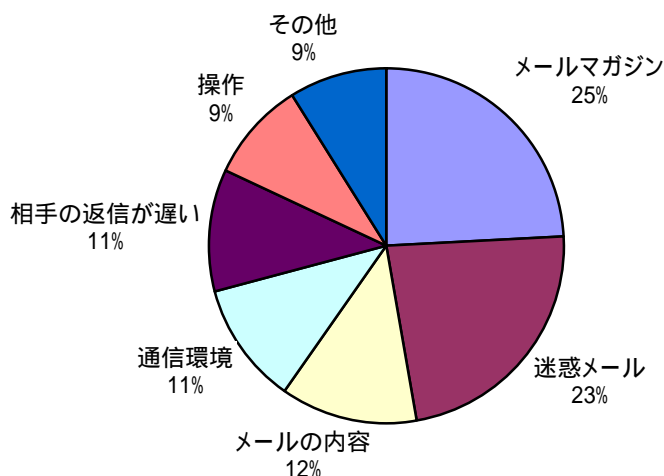


図2 - 6はメールでのストレスの発生源を学生に聞いた結果である。学生がメールでのストレスの原因として最も多く挙げたのは「メールマガジン」であり、次が「迷惑メール」である。両者には2%しか差がない。そのあとは「メールの内容」「通信環境」「相手の返信が遅い」「操作」の順に続く。この結果から一方的に送られてくるメールマガジンや迷惑メールなどの相手を必要としない一方的コミュニケーションがストレスの原因として強いことがわかる。迷惑メールは個人の許可なく送られてくるものだが、メールマガジンは定期的に情報を送ってもらうために個人が許可して送信されるものである。だが、この結果からは個人が希望したのにも関わらずメールマガジンもストレスとなることがわかる。登録を解除すればメールマガジンは送信されないが、簡単に解除が出来ないものやそもそも解除が面倒であると感じる学生にとっては、メールマガジンがストレスの原因になりうる。

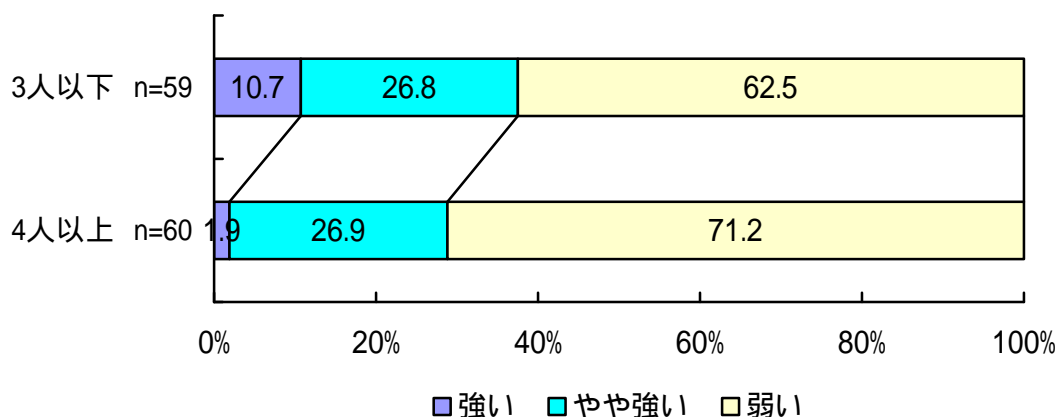
またメールの内容、通信環境、相手の返信が遅いなどはストレスの原因の要因としては10%ほどしかなく、相手を必要とする双方向的コミュニケーションは学生にストレスを与える要因としては弱いとわかる。

(3) 相談にのってくれる人数とメールストレスの強さ

悩んだときに相談にのってくれる人数を3人以下と4人以上で二区分し、メールストレスの強さとのクロス集計を行った。その結果が図2 - 7である。悩んだときに相談にのってくれる人数が少ない学生ほどメールストレスを強く感じ、人数が多い学生ほど感じる強さは弱い傾向にあることが

図からわかる。この差は、人に相談するという行為がストレスの発散になるからだと思われる。発散する機会が多いほどストレス解消もされる機会が増えるのであろう。相談によってくれる人数とメールストレスの強さには関連があるとわかった。

図2 - 7 相談によってくれる人数とメールストレスの強さ



2.4 Twitter ストレスの出現の要因

Twitter ストレスの特徴として、感じるストレスの強さとしては各ツールの中で最も低いという点と、面倒だと思う割合は各ツールの中で最も低い点が挙がる。また、Twitter はストレスが溜まったことがある割合よりもイライラしたことがある割合の方が高く、ストレスには至らない程度のイライラが利用時に存在しているのではないかと推測できる。

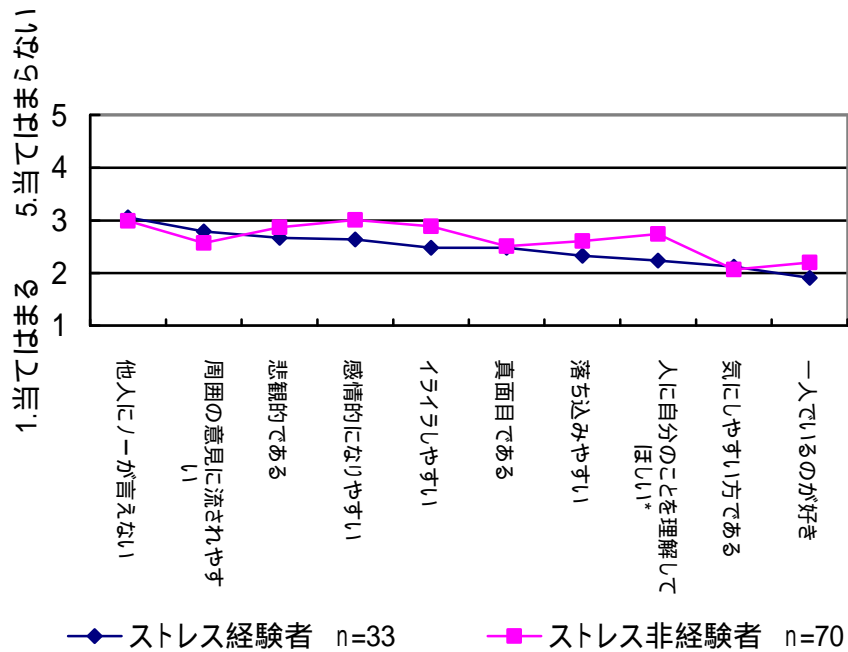
(1) 性格と Twitter ストレスの関連性

Twitter ストレスと学生の性格特性には関連性はあるのかを検証するため、Twitter のストレスを感じたことがあるかないかでグループを作り、性格質問群とのグループの平均を行った。その結果が図2 - 8である。

性格質問群の中で「人に自分のことを理解してほしい」だけに有意な結果を見ることができた。つまり、自分のことを理解してほしいと思う学生ほど Twitter 利用時にストレスを感じる傾向にあるということである。また、有意差はでなかったが、「イライラしやすい」、「感情的になりやすい」の項目にも特徴がみられ、この結果からイライラしやすい学生、感情的になりやすい学生ほど Twitter 利用時にストレスを感じる傾向にありそうだと推測できる。

以上のことから、Twitter ストレスと学生の性格特性には関連性がありそうである。特に、自分のことを理解してもらいたい、イライラしやすい、感情的になりやすいなどの性格の学生は Twitter 利用時にストレスを感じる可能性が高い。

図2 - 8 性格平均とTwitterストレス経験



(2) Twitter ストレス発生源

図2 - 9 Twitterストレス発生源

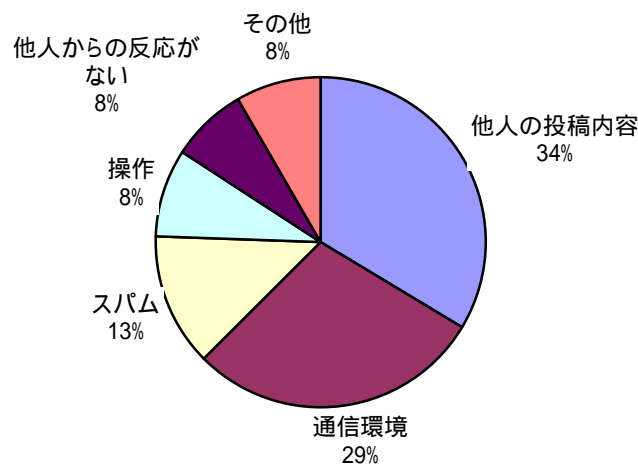


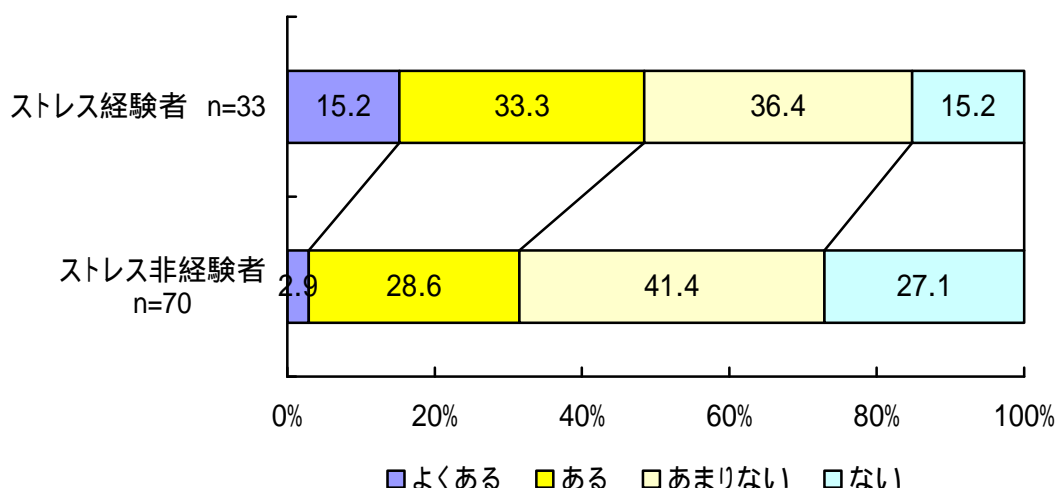
図2 - 9はTwitterでのストレスの発生源を学生に聞いた結果である。学生がTwitterでのストレスの原因として最も多く挙げたのは「他人の投稿内容」であり、次いで「通信環境」「スパム」「操作」「他人からの反応がない」の順であった。ストレスの原因として最も多い「他人の投稿内容」が

34%、次に多い「通信環境」は29%という結果であり、双方に大きな差はない。この二つがTwitter利用時のストレスの主な原因といえる。Twitterはフォロワーの投稿がリアルタイムにすべて表示される。そのため、見たい内容を選ぶことは出来ない。そのとき表示されている内容が自分の考えに反しているものであったり、気に障る内容であったりすると、他人の投稿内容はTwitterストレスの原因となるのであろう。また、Twitterの特徴に、すぐに反映されるというリアルタイム性がある。だが、通信環境によってつぶやきたいときにつぶやけない。他人の反応や自分の投稿がすぐに見られない。そういった一種のジレンマが学生にストレスを与えるのだと思われる。

(3) 各ツールの利用時の特徴とTwitterストレスの有無

次に、Twitter利用時にストレスを感じたことがあるかないかでグループを作り、各ツールを利用する際に起こりうる特徴別にクロス集計を行った。その結果、「自分のメールやツイート、投稿が意図せぬ解釈をされたことがある」の項目との関連が見られた。図2-10にその結果を示す。

図2-10 Twitterストレスと意図せぬ解釈をされた経験



Twitter利用時にストレスを経験した学生ほど、自分のメールやツイート、投稿に意図せぬ解釈をされた傾向にあることがこの図から読みとれる。Twitterには140字の文字制限がある。思ったことをぱっと打ち込むにはいいが、この文字数では簡略化して書くため相手に与える情報が少なくなる。このことが意図せぬ解釈の誘因となり、Twitterのストレスの原因となる。

またメールとFace bookも同様にFace bookのストレスとこの項目に関連はあるのか調べた結果、自分のメールやツイート、投稿に意図せぬ解釈をされたことと各ストレスに関連はなかった。

このことからTwitter利用時にストレスを感じる原因として、自分のツイートが意図せぬ解釈をされたことがあるかは関連がありそうだといえる。

(4) Twitter ストレス強さ別の因子得点

次に、性格特性と Twitter ストレスの強さで因子分析を行った。その結果を表 2 - 1 に示す。

表 2 - 1 Twitter ストレス強さ別の因子分析の結果

因子 (平方和、寄与率)	対応する変数 (係数の大きい順)
第 1 因子 (3.0, 30.7%) 1. 感情指向	q37g.感情的になりやすい、q37h.イライラしやすい q37f.悲観的である、q37i.落ち込みやすい q37b.気にしやすいほうである、q37j.人に自分のことを理解してほしい
第 2 因子 (1.9, 19.6%) 2. 非主体指向	q37d.他人にノーが言えない、q37e.周囲の意見に流されやすい
第 3 因子 (1.3, 13.4%) 3. 孤立指向	q37a.一人でいるのが好き、q37c.真面目である

(注) 平方和と寄与率はバリマックス回転後の値である。寄与率の合計は 63.7% である。

以上のように因子は次の 4 つである。

- 第 1 因子 感情指向： 自分の欲求に忠実であり、感情的である傾向の因子
第 2 因子 非主体指向： 自分よりも他人を優先し、他人に合わせようとする傾向の因子
第 3 因子 孤立指向： 他人との関わりを求めず、真面目である孤立傾向の因子

次に、Twitter ストレスの強さ別に、上記 3 つの因子得点の平均値を求めた。その結果を表 2 - 2 と図 2 - 11 に示す。

表 2 - 2 因子得点平均値と有意差

因子	ストレス強の因子得点	ストレスやや強の因子得点	ストレス弱の因子得点	差の有意差 (p)
1. 感情指向	-0.965	-0.469	0.042	0.052
2. 非主体指向	0.910	0.076	-0.230	0.045
3. 孤立指向	-0.565	-0.346	0.161	0.125

(注) 回答の選択肢番号は 1. 該当 5. 非該当となっている。このデータが標準化された場合平均値は 0、該当傾向は負、非該当傾向は正となる。このために因子得点が負のほうが各因子の傾向は強い。

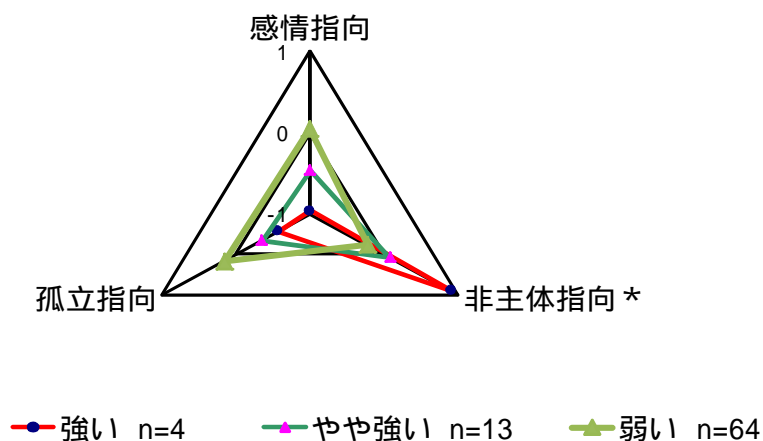
この結果から次の傾向をまとめることができる。

Twitter ストレスを強く感じる学生は自分の欲求に忠実であり、感情の起伏が大きい感情指向傾向にある。他人との関わりを求めず、真面目である孤立傾向も強い。だが自分よりも他人を優先し、他人に合わせようとする傾向の非主体指向は弱く、その傾向にないといえる。

Twitter ストレスを感じない学生は感情指向、孤立指向ともに傾向が弱く、非主体指向傾向が強い。

このように、Twitter ストレスの強さの要因として性格特性は大いに関連している。感情的である学生や一人であるのが好きな学生は Twitter に強いストレスを感じやすいが、そうでない学生はストレスを感じない傾向にあることがわかる。非主体指向である学生とそうでない学生とではストレスの強さには有意差があり、Twitter ストレスが強い学生ほど非主体指向にないことがわかった。

図2 - 11 Twitterストレスの強さ別の因子得点



(注) 図中では内側のほうが傾向が強いことを示している。なお * は平均値の差の有意差を示し、非主体指向の因子と Twitter ストレスの強さには有意差があることを示している。

2.5 Face book ストレスの出現の要因

Face book は、ストレスを感じた頻度として各ツールの中で最も割合が低い。学生の半数はストレスを感じたことがない。だが、ストレスを感じたことがある学生はそのストレスを強く感じる傾向にあり、Face book 利用時のストレスは学生に強いストレス感を与えている。また、Face book は各ツールの中で面倒であると思う学生の割合が最も多い傾向にある。面倒であることが Face book ではストレスに関係しているのではないかと推測できる。

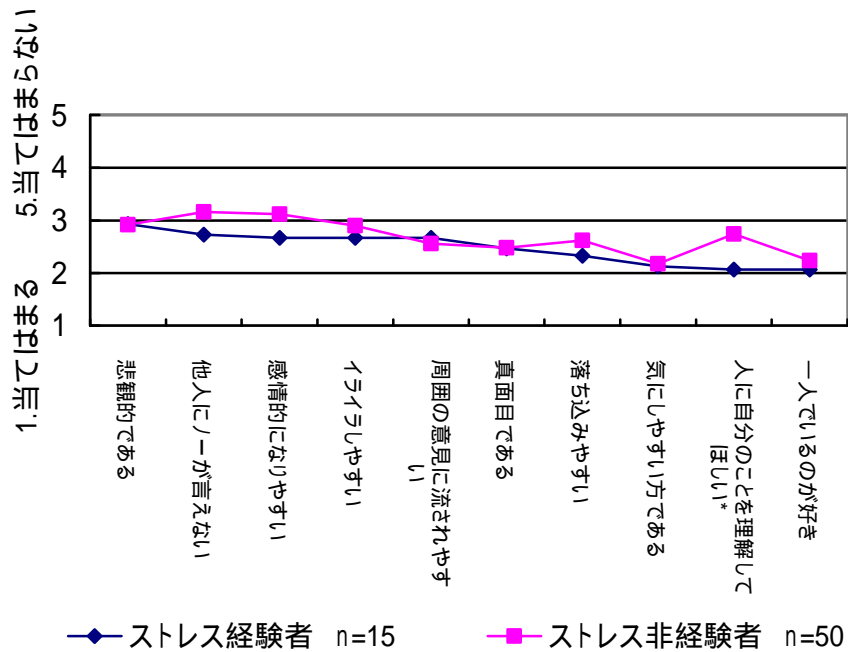
(1) 性格と Face book ストレスの関連性

Face book ストレスと学生の性格特性には関連性はあるのかを検証するため、Face book のストレスを感じたことがあるかないかでグループを作り、性格質問群とのグループの平均を行った。その結果が図2 - 12である。

性格質問群の中で「人に自分のことを理解してほしい」だけに有意的な結果を見ることができる。人に自分のことを理解してほしいと思う学生ほど Face book を利用時にストレスを感じたことがある傾向にあり、また有意的な結果は得られなかったが、「他人にノーが言えない」「感情的になりやすい」の項目に特徴がみられた。「他人にノーが言えない」「感情的になりやすい」という性格特徴を持つ学生ほどストレスを感じやすい傾向にありやすいようである。

以上のことから、Face book ストレスと学生の性格特性には関連性がありそうである。特に、自分のことを理解してもらいたい。他人にノーが言えない。感情的になりやすいなどの性格の学生は Face book 利用時にストレスを感じる可能性が高いといえる。

図2 - 12 性格平均とFace bookストレス経験



(2) Face book ストレス発生源

図2 - 13 Face bookストレス発生源

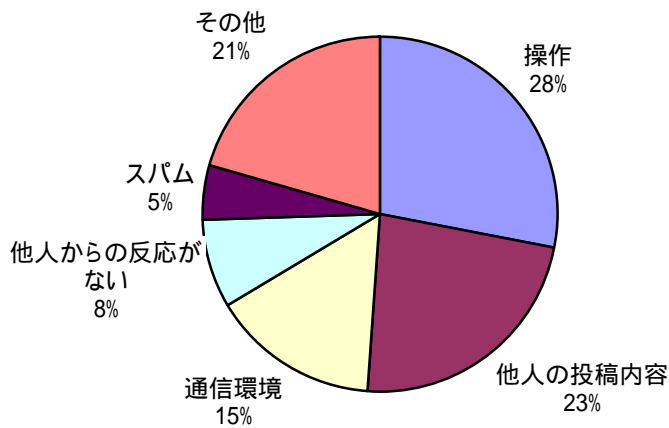


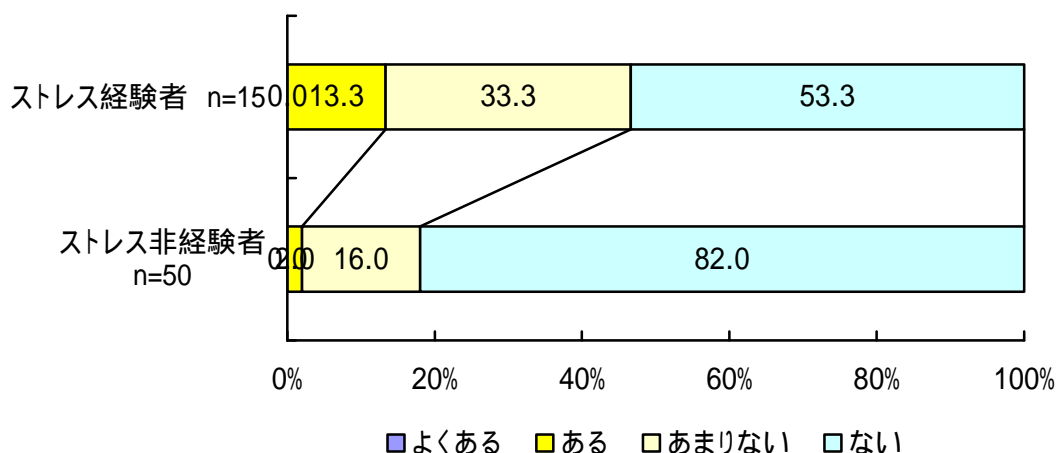
図2 - 13はFace bookでのストレスの発生源を学生に聞いた結果である。学生がFace bookでのストレスの原因として最も多く挙げたのは「操作」であり、次いで「他人の投稿内容」「通信環境」「他人からの反応がない」「スパム」の順であった。ストレスの原因として最も多い「操作」が28%、

次に多い「他人の投稿内容」は23%という結果であり、双方に大きな差はない。この二つがFace book 利用時のストレスの主な原因といえる。操作がFace book 利用時のストレスの原因となる理由として、Face book はメールやTwitter と比べ、操作が難解である点にある。Face book を始めたばかりのユーザーが使い方に戸惑い、登録はしたけどそのまま放置してしまったという例もある。Face book は様々な機能やアプリケーションと連動しており、使いこなせれば非常に有意義なツールであるが、操作に慣れるまでにはストレスが付きまとうものであるといえる。そして、他人の投稿内容がストレスとなってしまう原因としては、Face book の特徴にあるといえる。Face book の特徴は、実名性で個人情報を公開してやり取りを行うことにある。そのためにリアルな人間関係をソーシャル上でも行っている傾向にある。Twitter でもその傾向にあるが、Face book はよりその傾向が顕著である。実名性であるから見栄を張った自慢的な書き込みも多く、リアルな友達がソーシャルな友達であるからこそ、書かれた内容に否定的な反応は出来ない。Face book はブログなどとは異なり、自分のページ内に見たくもない相手の自慰的な書き込みが、能動的な拒否をしない限り自動的に流れてきてしまう仕組みである。この点がFace book 利用時に学生にストレスを与える原因となるのだと思われる。

(3) 各ツールの利用時の特徴とFace book ストレスの有無

次に、Face book 利用時にストレスを感じたことがあるかないかでグループを作り、各ツールを利用する際に起こりうる特徴別にクロス集計を行った。その結果、「Face book をチェックしていないと落ち着かない」の項目との有意的な関連が見られた。図2 - 14にその結果を示す。

図2 - 14 Face bookストレスとFace bookをチェックしていないと落ち着かないかの経験(2乗: * = 0.045)



この図からFace book 利用時にストレスを経験した学生ほど、Face book をチェックしていないと落ち着かない傾向にあることがわかった。Face book に依存している傾向にある学生ほどFace

book でのストレスを感じやすいといえる。

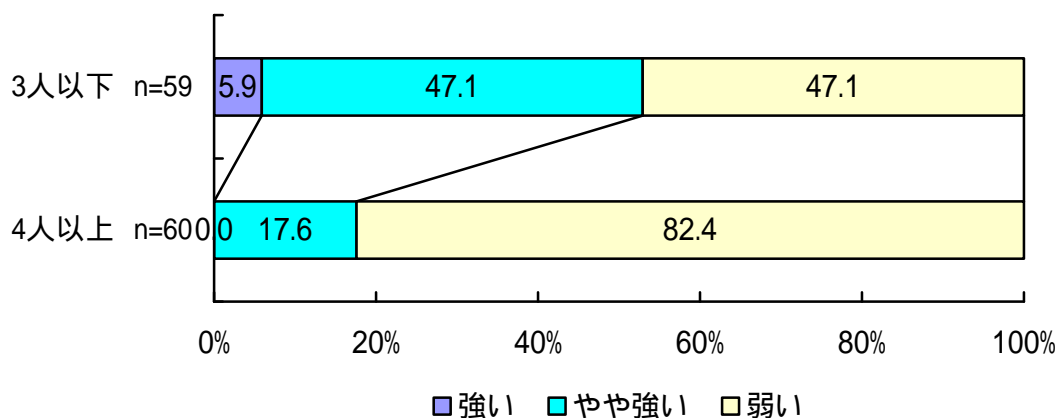
また Twitter でもストレスの経験の有無と Twitter をチェックしていないと落ち着かないかに関連はあるのか調べた結果、Twitter をチェックしていないと落ち着かないかと Twitter ストレスの経験の有無に関連はなかった

このことから Face book 利用時にストレスを感じる原因として、Face book をチェックしていないと落ち着かないかどうかには関連がある。

(4) 相談にのってくれる人数と Face book ストレスの強さ

悩んだときに相談にのってくれる人数を 3 人以下と 4 人以上で二区分し、Face book ストレスの強さとのクロス集計を行った。その結果が図 2 - 15 である。悩んだときに相談にのってくれる人数が少ない学生ほど Face book ストレスを強く感じ、人数が多い学生ほど感じる強さは弱い傾向にあることが図から見て取れる。メールストレスも同じ傾向にあり、相談にのってくれる人数とストレスの強さには関連があることがわかった。だが、Twitter ストレスの強さと相談にのってくれる人数でクロス集計をした結果、二つに関連性は見られなかった。相談にのってくれる人数とメールストレス、Face book ストレスの強さには関連があるが、Twitter ストレスとは関連性はない。メールストレスや Face book ストレスと Twitter ストレスとではストレスの質が違いそうである。

図 2 - 15 相談にのってくれる人数と Face book ストレスの強さ



第3章 まとめと今後の課題

携帯電話はいまや学生の必需品であり持っていない学生はおらず、一人一台は必ず持っているものである。携帯電話は以前、通話やメールを利用する目的で利用されていたが、スマートフォンが登場して以来、これまでの通話やメールだけにとらわれず、アプリサービスによって使い方は個人により大きく変化している。調査により、学生はTwitterを最も多く利用し、次にメール、Face bookを利用しているとわかった。近年のSNSの一層の普及により、文教大学生のTwitter、Face book利用率は非常に高いものである。Twitter 利用は 85%、Face book 利用は 55%と大半の学生がTwitter、Face book を利用しており、どちらも利用していない学生は稀である。

携帯コミュニケーションが大いに普及し、ストレスを感じている学生もいることが調査により判明した。各ツールの中で学生がストレスを感じたことがあるメールであり、次にTwitter、Face bookという順であった。

メールでのストレスを感じたこのある学生は55%と、主に文教大学生の半数がメールでのストレス経験がある。ストレスの原因としてはメールマガジン、迷惑メールが大半を占めた。また学生の大半がメールをイライラする、面倒である、ストレスが溜まると回答し、メールはストレスが現れやすいツールであることがこの調査によりわかった。

Twitter ストレスの特徴として、感じるストレスの強さとしては各ツールの中で最も弱いという点と、面倒だと思う割合は各ツールの中で最も弱い点が挙がる。Twitter を面倒である答えた学生の割合は各ツールの中で最も少なく2割にも満たない。これはTwitterの特徴である簡易性と関連があると思われる。学生がTwitterでのストレスの原因として最も多く挙げたのは「他人の投稿内容」であり、Twitter 利用時にストレスを経験した学生ほど、自分のメールやツイート、投稿に意図せぬ解釈をされた傾向にあることがわかった。Twitter には140字の文字制限がある。思ったことをぱっと打ち込むにはいいが、この文字数では簡略化して書くため相手に与える情報が少なくなる。このことがTwitterのストレスを誘引させるのである。

Face book は、ストレスを感じたことがあるツールとして最も割合が低く、学生の半数はストレスを感じた経験にないことがわかった。だが、ストレスを感じたことのある学生はそのストレスを強く感じる傾向にある。Face book 利用時のストレスの主な原因は「操作」と「他人の投稿内容」であった。Face book はメールやTwitter と比べて操作が難解であるという点と、実名性であるからその投稿内容やそれに対する反応へのわずらわしさなど、他人の投稿内容が学生にストレスを与える主な原因である。そしてFace book に依存している学生ほどストレスを感じやすいことが調査によりわかった。

また学生の性格特性と携帯コミュニケーションストレスには関連があった。他人に自分のことを理解してほしいと思う学生ほどTwitter、Face book といったSNSのストレスを感じやすい傾向に

ある。特に Twitter に関しては性格特性とストレスの強さに大いに関連があった。感情の起伏が大きく、他人の意見に流されにくい自我が強い学生は Twitter に強いストレスを感じやすい。一方、他人の意見に流されやすく、他人の意見にノーが言えない非主体指向傾向にある学生は Twitter ストレスを感じにくいことがわかった。

また、悩んだときに相談にのってくれる人の数とメールストレス、Face book ストレスの強さには関連があり、人数が多いほどストレスを感じにくい傾向にあることが調査によってわかった。だが、Twitter には関連がなく、これら 3 つのツールのストレスには違いがありそうだとわかったが、どのような違いにあるのかこの調査では判明できなかった。今後、各ツールのストレスの違いを詳しく調べていく必要がありそうである。

また最近では SNS である LINE が爆発的に普及しており、NHN Japan は、LINE の登録ユーザー数が 11 月 30 日時点で世界 8,000 万人、日本国内 3,600 万人をそれぞれ超えたと発表した。LINE とは、NHN Japan が提供している、携帯電話（スマートフォン・フィーチャーフォン）・パソコン向けのインターネット電話やテキストチャットなどのリアルタイムコミュニケーションを行うためのインスタントメッセンジャーである。同じ SNS であるが Twitter、Face book、LINE では各々特性が異なる。学生のストレスをより深く分析するためには LINE などの SNS の利用状況、利用目的についても詳しく調査していく必要性を感じた。

参考文献

- ・鐸木能光著「デジタルストレス パソコンに蝕まれる現代人」地人書館 2001.08
- ・日本人のストレス実態調査委員会編著「データブックNHK現代日本人のストレス」NHK出版 2004.11
- ・南海昌博 津川律子 内田江里著「あなたの中の「パソコンストレス」」オーム社 1998.09
- ・goo ランキング ソーシャル疲れの原因になっていると思うことランキング
http://ranking.goo.ne.jp/ranking/092/social_fatigue_cause/
- ・IT 用語検索 e-Words 「テクノストレス」<http://e-words.jp/>
- ・IT media ニュース 「mixi 疲れ」を心理学から考える
<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/0607/21/news061.html>
- ・インターネットコミュニューズ 「LINE」登録ユーザー数が 8000 万人を突破
<http://www.yomiuri.co.jp/net/news/internetcom/20121204-OYT8T00340.htm>

資料 1 . 調査の単純集計結果

大学生のネット利用とストレス感 n=120

情報学部広報学科 草野加純

「社会調査」の授業のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問1. あなたの携帯電話の種類はどれですか(当てはまるすべてに) n=120

1. iPhone	36.7	2. スマートフォン	36.7	3. ガラパゴス携帯	28.3
-----------	------	------------	------	------------	------

問2. 今使っている携帯電話の使用期間はどれくらいですか(1つに) n=120

1. 2ヶ月未満	5.8	2. 2~4ヶ月未満	5.8	3. 4~6か月未満	3.3
4. 半年~1年未満	31.7	5. 1年以上3年未満	47.5	6. 3年以上	5.8

問3. 一日携帯電話を持っていないと不安になりますか(1つに) n=120

1. はい	69.2	2. いいえ	30.8
-------	------	--------	------

問4. 最もよく利用するツールはどれですか(1つに) n=120

1. メール	41.7	2. Twitter	56.7	3. Face Book	0.8	無回答	0.8
--------	------	------------	------	--------------	-----	-----	-----

問5. 携帯電話(スマートフォン、iPhone含む)での一日の平均インターネット利用時間はどれくらいですか(1つに) n=120

1. 1時間未満	10.0	2. 1~2時間	28.3	3. 2~3時間	26.7
4. 3~4時間	12.5	5. 4~5時間	12.5	6. 5時間以上	10.0

問6. パソコンでの一日の平均インターネット利用時間はどれくらいですか(1つに) n=120

1. 1時間未満	34.2	2. 1~2時間	25.8	3. 2~3時間	13.3
4. 3~4時間	10.8	5. 4~5時間	7.5	6. 5時間以上	8.3

問7. 一日の平均メール送信数は何通ですか(1つに) n=120

1. 0通	6.7	2. 5通以下	60.8	3. 6~10通	22.5
4. 11~20通	5.0	5. 21~30通	2.5	6. 31通以上	2.5

問8. 一日の平均メール受信数は何通ですか(迷惑メール含まず)(1つに) n=120

1. 0通	0	2. 5通以下	41.7	3. 6~10通	40.0
4. 11~20通	8.3	5. 21~30通	6.7	6. 31通以上	3.3

問9. メールにストレスに感じたことはありますか(1つに) n=120

1. よくある	8.3	2. ある	46.7	3. あまりない	35.0	4. ない	9.2	問12へ	5. 無回答	0.8
---------	-----	-------	------	----------	------	-------	-----	------	--------	-----

問10. メールに対してストレスの度合いはどれくらいですか(1つに) n=108

1. 強い	6.5	2. やや強い	26.9	3. 弱い	66.7
-------	-----	---------	------	-------	------

問11. メールのどこにストレスを感じますか(当てはまるすべてに) n=108

1. 操作	14.8	2. 通信環境	18.5	3. メールの内容	20.4	4. 迷惑メール	38.0
5. メールマガジン	39.8	6. 相手の返信が遅い	18.5	7. その他	14.8	8. 無回答	1.9

問12. Twitterを利用していますか(1つに) n=120

1. はい	85.8	2. いいえ	14.2	問19へ
-------	------	--------	------	------

問13. どれくらいの頻度でTwitterをチェックしていますか(1つに) n=103

1. 10分置き	12.6	2. 30分置き	12.6	3. 1時間置き	29.1
4. 2~3時間置き	34.0	5. 1日置き	7.8	6. それ以上	3.9

問14. 一日の平均つぶやき数はどれくらいですか(1つに) n=103

1. 5回以下	64.1	2. 6~10回	19.4	3. 11~30回	6.8
4. 31~50回	2.9	5. 51~100回	5.8	6. 101回以上	1.0

問15. Twitterをどちらで利用する方が多いですか(1つに) n=103

1. パソコン	12.6	2. スマートフォン(iPhone含む)	67.0	3. ガラパゴス携帯	19.4	4. 無回答	1.0
---------	------	----------------------	------	------------	------	--------	-----

問16. Twitterにストレスを感じたことはありますか(1つに) n=103

1. よくある	4.9	2. ある	27.2	3. あまりない	47.6	4. ない	20.4	問19へ
---------	-----	-------	------	----------	------	-------	------	------

問17. Twitterに対してストレスの度合いはどれくらいですか(1つに) n=82

1. 強い	4.9	2. やや強い	15.9	3. 弱い	79.3
-------	-----	---------	------	-------	------

問18. Twitterのどこにストレスを感じますか(当てはまるすべてに) n=82

1. 操作	11.0	2. 通信環境	37.8	3. 他人の投稿内容	43.9		
4. 他人から反応がない	9.8	5. スпам	17.1	6. その他	11.0	7. 無回答	2.4

問19. Face Bookを利用していますか(1つに) n=120

1. はい	55.8	2. いいえ	43.3	問26へ	無回答	0.8
-------	------	--------	------	------	-----	-----

問20. どれくらいの頻度でFace Bookをチェックしていますか(1つに) n=67

1. 1時間未満	34.3	2. 1~2時間	3.0	3. 3~4時間	6.0
4. 4~5時間	7.5	5. 5~6時間	19.4	6. 6時間以上	29.9

問21. 一日の平均投稿数はどれくらいですか n=67

1. 5回以下	97.0	2. 6~10回	3.0	3. 11~30回	0
4. 31~50回	0	5. 51~100回	0	6. 101回以上	0

問22. Face Bookをどちらで利用する方が多いですか(1つに) n=67

1. パソコン	38.8	2. スマートフォン(iPhone含む)	52.2	3. ガラパゴス携帯	7.5	4. 無回答	1.5
---------	------	----------------------	------	------------	-----	--------	-----

問23. Face Bookにストレスを感じたことはありますか(1つに) n=67

1. よくある	3.0	2. ある	19.4	3. あまりない	29.9	4. ない	44.8	問26へ	5. 無回答	3.0
---------	-----	-------	------	----------	------	-------	------	------	--------	-----

問24. Face Bookに対してストレスの度合いはどれくらいですか(1つに) n=37

1. 強い	2.7	2. やや強い	29.7	3. 弱い	59.5	4. 無回答	8.1
-------	-----	---------	------	-------	------	--------	-----

問25. Face Bookのどこにストレスを感じますか(当てはまるすべてに) n=37

1. 操作	29.7	2. 通信環境	16.2	3. 他人の投稿内容	24.3		
4. 他人から反応がない	8.1	5. スпам	5.4	6. その他	21.6	7. 無回答	13.5

問26．各ツールの利用についてお聞きます（1つに ） n=120

	1 .よくある	2 .ある	3 .あまりない	4 .ない
A. 自分のメールやツイート、投稿が意図せぬ解釈をされたことがある	6.7	30.0	36.7	26.7
B. Twitter をチェックしていないと落ち着かない	8.3	25.0	34.2	32.5
C. Face Book をチェックしていないと落ち着かない	0	3.3	13.3	83.3
D. 付き合いでフォローや友達申請している	13.3	36.7	22.5	27.5
E. フォロワー数をチェックしている	8.3	17.5	35.0	39.2
F. フォロワー数や友達が増えるのが嬉しい	16.7	30.8	24.2	28.3
G. 自分の投稿に反応がほしい	10.8	43.3	22.5	23.3
H. 自分の友達の数がフォロワー数に反映すると思う	5.8	18.3	33.3	42.5
I. 「いいね！」をつける	12.5	17.5	21.7	48.3
J. 自分に共通の友人同士のネット上のやりとりが気になる	6.7	30.8	31.7	30.8

問27．最も面倒だと思うものはどれですか（1つに ） n=120

1 .メール	45.8	2 .Twitter	19.2	3 .Face Book	33.3	無回答	1.7
--------	------	------------	------	--------------	------	-----	-----

問28．利用時に最もストレスが溜まったことがあるものはどれですか（1つに ） n=120

1 .メール	58.3	2 .Twitter	20.8	3 .Face Book	18.3	無回答	2.5
--------	------	------------	------	--------------	------	-----	-----

問29．利用時に最もイライラしたことがあるものはどれですか（1つに ） n=120

1 .メール	50.8	2 .Twitter	27.5	3 .Face Book	19.2	無回答	2.5
--------	------	------------	------	--------------	------	-----	-----

問30．利用時、コメントトラブルが起きたことがあるものはどれですか（当てはまるすべてに ） n=120

1 .メール	15.8	2 .Twitter	22.5	3 .Face Book	3.3	4 .どれも当てはまらない	62.5
--------	------	------------	------	--------------	-----	---------------	------

問31．悩み事があるときどのツールを使用しますか（最も当てはまる1つに ） n=120

1 .メール	15.8	2 .Twitter	12.5	3 .Face Book	0
4 .友人に会って直接話す	52.5	5 .その他	6.7	6 .どれも使用しない	12.5

問32．イライラしたときどのツールを使用しますか（最も当てはまる1つに ） n=120

1 .メール	5.8	2 .Twitter	28.3	3 .Face Book	0
4 .友人に会って直接話す	23.3	5 .その他	7.5	6 .どれも使用しない	35.0

問33．現在あなたはどれくらいストレスが溜まっていますか（1つに ） n=120

1 .0～20%	15.8	2 .21～30%	25.8	3 .31～40%	18.3
4 .41～50%	10.0	5 .51～60%	11.7	6 .61～70%	9.2
7 .71～80%	0.8	8 .81～90%	4.2	9 .91～100%	4.2

問34．最近の精神状態についてお聞きます（1つに ） n=120

	1 .多い	2 .やや多い	3 .あまり多くない	4 .まったくない
A. ストレスを感じるが多い	19.2	35.0	40.0	5.8
B. イライラすることが多い	18.3	33.3	39.2	9.2
C. 落ち込むことが多い	27.5	34.2	29.2	9.2
D. 不安になることが多い	30.0	37.5	22.5	10.0

問35．悩んだとき相談にのってくれる人は何人いますか(1つに) n=120

1. 1人	3.3	2. 2人	20.8	3. 3人	19.2
4. 4~5人	30.0	5. 6人以上	20.0	6. 誰もいない	6.7

問36．インターネット上だけで知り合いになった友人は何人いますか(1つに) n=120

1. 1人	1.7	2. 2~3人	20.0	3. 3~5人	9.2
4. 5~10人	5.0	5. 10人以上	22.5	6. 誰もいない	41.7

問37．あなたの性格について教えてください(1つに) n=120

	1. 当てはまる	2. やや当てはまる	3. どちらともいえない	4. あまり当てはまらない	5. 当てはまらない	無回答
A. 一人でいるのが好き	34.2	38.3	16.7	6.7	2.5	1.7
B. 気にしやすい方である	33.3	40.0	12.5	10.8	3.3	0
C. 真面目である	15.8	40.8	25.8	10.8	6.7	0
D. 他人にノーマルが言えない	10.8	24.2	27.5	23.3	14.2	0
E. 周囲の意見に流されやすい	15.0	35.8	19.2	24.2	5.8	0
F. 悲観的である	12.5	24.2	37.5	18.3	7.5	0
G. 感情的になりやすい	13.3	18.3	35.0	27.5	5.8	0
H. イライラしやすい	12.5	29.2	32.5	20.0	5.8	0
I. 落ち込みやすい	22.5	33.3	21.7	15.8	6.7	0
J. 人に自分のことを理解してほしい	11.7	40.0	30.8	10.8	6.7	0

F1．性別(1つに) n=120

1. 男性	30.0	2. 女性	70.0
-------	------	-------	------

F2．学年(1つに) n=120

1. 1年生	0	2. 2年生	48.3	3. 3年生	45.8	4. 4年生	5.8
--------	---	--------	------	--------	------	--------	-----

F3．学科(1つに) n=120

1. 広報	100	2. 経営情報	3. 情報システム	4. 国際理解
5. 国際観光	6. 健康栄養			

F4．世帯状況(1つに) n=120

1. 実家暮らし	48.3	2. 一人暮らし	47.5	3. ルームシェア	0.8	4. 寮生活	2.5	5. その他	0.8
----------	------	----------	------	-----------	-----	--------	-----	--------	-----

F5．あなたは現在、アルバイトをしていますか(1つに) n=120

1. している	66.7	2. していない	33.3
---------	------	----------	------

F6．あなたは現在、サークル部活動に所属していますか(1つに) n=120

1. している	73.3	2. していない	26.7
---------	------	----------	------

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。